



開発的安息日学校教授法

020307-000-8

特18-199

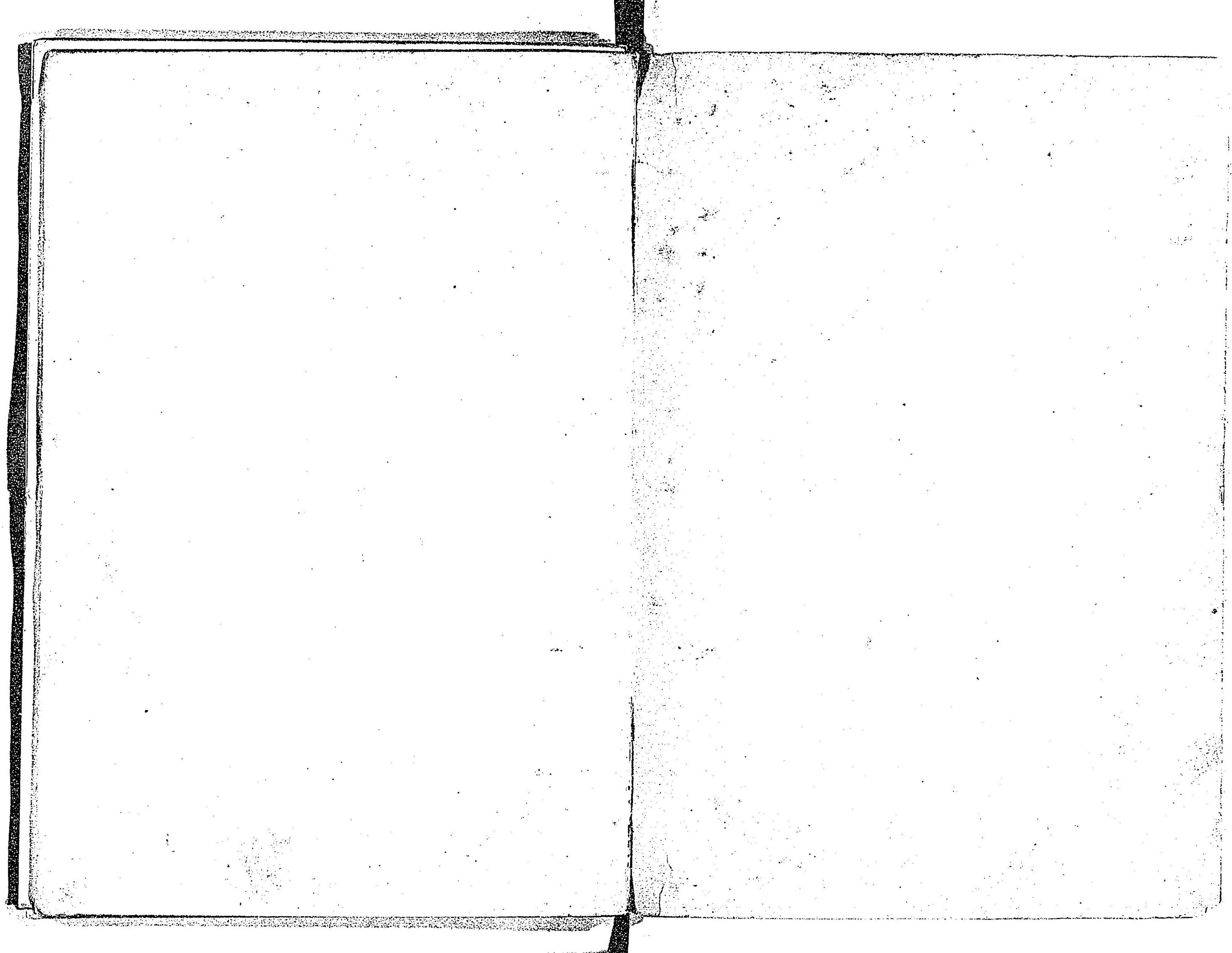
開発的安息日学校教授法

島貫 兵太夫/著

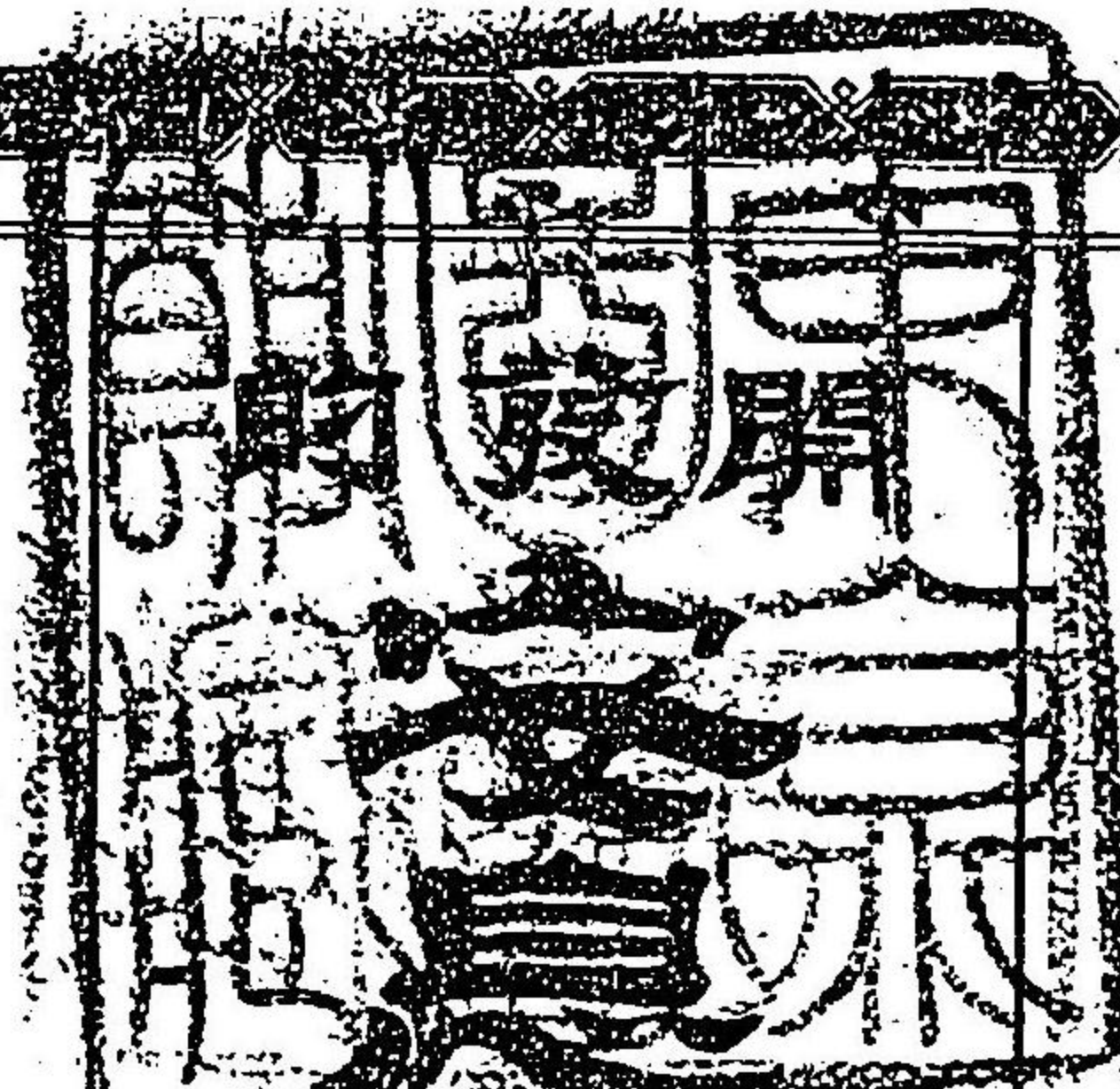
M24

ABI-0113





持18
199

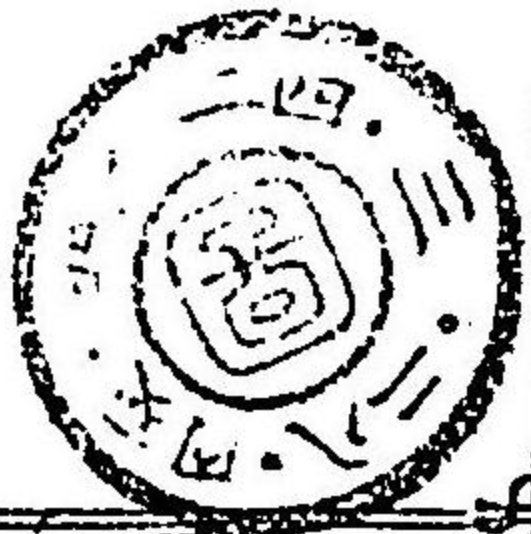


島貫兵太夫著

學校教授法

完

明治廿四年三月刊行



序

我邦安息日學校教授の著書未だあらず、余輩
之を望む久し、未だ之を見ず已を得ず、不肖鈍
才薄學を顧みず、茲よ秃筆を叱して書きつゞ
るとどふりたり、然ども余輩は先驅者ふり、完
全高等の著書の如きは之を後の君子に譲る、

明治廿四稔春二月下院東京麹町に於て

著者識るす

凡 例

本書は歐米各國有名の教育家、ペスタロッチ、シヨフオノツトノルゼントスペンサー、ツエケール、デステルヒー、ロック、クルーソー等諸子の實驗、理論、を譯集參考して本邦兒童發達の事情に應照して如何に教ゆべき乎を論じたるものなり、

一 本書の本邦人及西人の我邦に於ける安息日學校にて實驗したる條件をも併せ載せたり、

一 本書著者の苦心に其「注意」ある心理學的、理論、及び實驗の部分にあり、讀者は最要の部分亦此點あり、

一 本書の我邦安息日學校器械的教授法を廢し、人生自然發達の法に適合する教授法を擴むるの先驅者たるを得べし、

一 本書の脱稿は明治廿一年あり故ありて之を世に公にせざりしが、今人の勸めを任せ之を世に公にせり、

開發的安息日學校教授法目次

第一章 總論

一 課 安息日學校論 一 頁

二 課 安息日學校論 其二 三 頁

三 課 安息日學校論 其三 五 頁

第二章 教授法

一 課 編級法

第一 下級 九 頁

第二 中級 十 頁

第三 上級 十一 頁

第四 結論 十二 頁

二 課 教授法

下級 教授法 一三 頁

(一)	掛圖の事	一四頁
(二)	カードの事	一五頁
(三)	掛圖の教授法	一六頁
(四)	カードの教授法	二八頁
三課 教授法		
中級教授法		
(一)	聖書の教授法	三七頁
(二)	カードの教授法	三八頁
四課 教授法		
上級教授法		
(一)	教科書の事	五一頁
(二)	聖書の教授法	五一頁
(三)	神學書教授法	五二頁

第三章 實事口述法

注意

(一)	教師の容儀	五八頁
(二)	言語の種類	六二頁
(三)	事實の種類	六四頁
(四)	繪畫掛圖の事	六五頁
(五)	聲の抑揚の事	六六頁
(六)	兒童の情を知る事	六八頁
(七)	言行一致の事	七〇頁
(八)	唯善事實のみを語る事	七二頁
第四章 教員會		
(一)	其種類	七三頁
(二)	其研究問題	七五頁

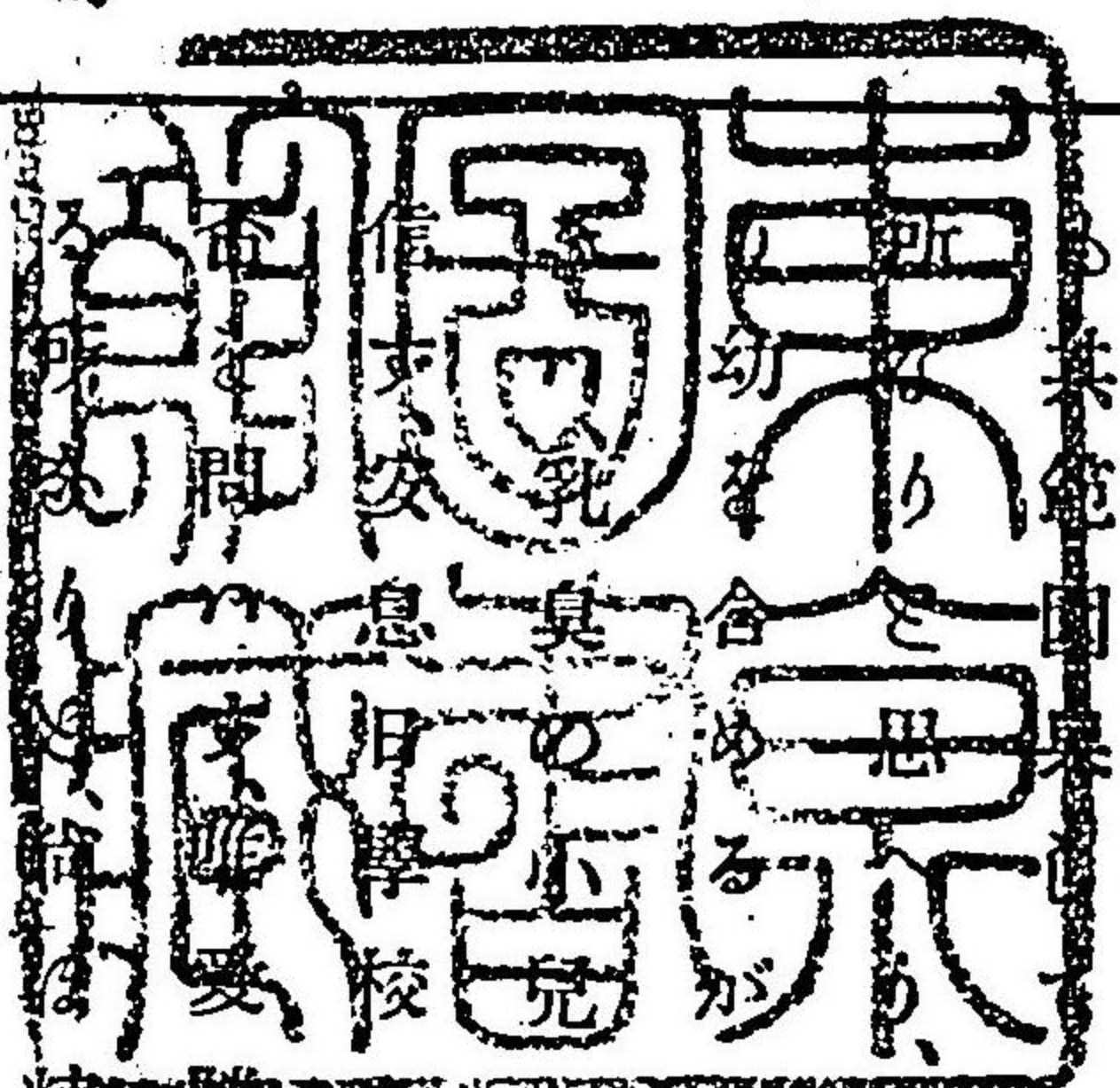
(三) 其功驗
第五章 教授上の金言

- (一) スペンサー氏
- (二) シヨホノツト氏
- (三) ノルゼント氏
- (四) ツエケール氏
- (五) ペスタロジイ氏
- (六) 其他教育家の金言

開發的安息日學校教授法目次尾

安息日學校の範圍

其目的



第一章
第一課
安息日學校論一

安息日學校とは常お兄弟の唱ふる所、口おする所なり、然れど如何、或人單よ見女の集會する一群を教ゆる
 然れども現時の有様を見るときは實際老よ
 如し、現に我恩人ケルカイ氏の主るものよ如
 り戴白の老翁よ至ると言へり、然り余輩の
 るもの凡て年の老若を問ひ、宗教の奉
 愛神の念を盛ならしむる爲めに之を教ゆ
 精しく之を言へば、安息日學校教育の目的の
 信者の信仰を高め、不信者をして神を信仰せしむるの念を起
 さしむるよあり、夫れ斯の如く現時實際の有様よ於ては、安息

ロムルト
レックス
氏
余輩の教
授法

日學校の目的とする所の廣く、其含蓄する所、年の老若を問ひ
老と雖ども、其今日より來りたる起源を尋ぬるに、ロムルトレ
クスあるもの兒童教育の忽諸ふ付すべからざるを悟り、兒童
の爲めに専ら安息日學校を開きたるが如し、余輩の教授法も
又唯兒女安息日學校を教授する方法にして壯老を教ゆるの
方法とあらざる也、勿論之を教ゆるものゝ如何よりして、適
宜と適用するを得べしと雖ども其主とする所は兒女社會に
あり、

安息日學
校教育の
輕忽を
かみす

往日の誤
認

安息日學
校教育の
最要の傳
導なり

今日の教

第二課

安息日學校論二

人よ、兒女安息日學校教育の輕忽をすへきものと思ふ乎、其關
係する所小あるものと思ふ乎、爾教會の教師よ、其れ此の忘想
を懷く勿れ、爾父兄よ、其れ此の誤謬を藏する勿れ、二三年前
安息日學校教育を付てり、一般の人甚た不信切なりしあり、否
ち之り贅物なるを主張するものさへ教會の中より起るに至り
たりき、其言ふ處を聞くよ、曰く日本教會未だ幼稚あり、若かず
協力同心傳導するものと、知らば安息日學校教育の、最要の傳
導なるを、將來の柱石を据るものなるを、
然り而して今に於て誰か此愚論を主張するものかある、一般
其必要を感じたる秋ならずや、
然ども其教授法の不完全として到底其目的を達するに能

授法ハ不
完全ナリ

さるを如何せん、目的如何に完全あるも、善美あるも、之を達するの方法に於て欠所あらば、其目的を達し能はざるといふ普通の道理あらずや、故に若し茲に其教授法を輕蔑するの人は、吾人の其人を呼んで眞に兒女安息日學校の期望目的を輕蔑するのひと云ふ也、余輩ハ斯くの如き人の速に我邦安息日學校の跡を収め、熱心兒女を愛する熱腸慈眼の士の顯れられんを、我邦兒女安息日學校生徒一同の爲め熱望してやまざる所あり、

兒女の思
人ヲ望ム

今日の教
授法

第三課
安息日學校論三
スペンサー氏曰く今世の教育家ハ生徒を教導せずして専ら之を告ぐるありと、

注入的教
授法

看よ、安息日學校教授の方法を、今世の教授法——教ゆる教員其人の自ら知らざるならん、然とも實に此れ注入主義教授法に陥りたるものなり、彼等は兒童の已に厭きたるも關する所あはらざる也、否な兒童の腦已に堪へざるをも知らざる也、已に堪へ難き故に屢移るをも知らざる也、唯無理非道に難義なるカードを暗記せしめんと試む、此れ所謂注入的教授法にあらずして何ぞや、夫れ注入的教授法よりて兒童を教へんとするに、兒童を損はんと企つと同一あり、蓋し兒童の心意に注入的教授法を以て發達せらるるものにあはらざる也、注入的教

授法ハ全く兒童の天性を戻れるものなればなり、
夫れ兒童の心意ハ、唯開發的教授法によりて之を發達せしむ
るを得べし、若し吾輩今に於て開發的教授法を去らば、吾人
は完全ある教授法を有せざる也、兒童の天性に適合したる教
授法を有せざる也、語を換へて之を言ふ時の兒童を教ゆる最
良の方法を有せざる也、故に又其好結果を有せざる也、
故に苟も能く兒童を愛して此れか發達を望むものハ、之をし
て完全な發達せしむる最良の方法を以て之を教ゆへき也、我
文部は於てハ、已に開發主義の教育を取り、之れを教授法も又
其主義に従ひたり、見よ、此れ注入的教授法の人生發達の理ハ
適ハず、開發的教授法の人生發達の理に近しとの故を以て、採
用撰擇せられたるハ、あらずや、文部省の取る所の主義に於て、
吾人の賛成する能ハざる所、固より多し、然とも吾人は又文部

省ハ老練の教育家、慧眼有識の君子の蕪淵なりと信する也、故
又其取られたる主義方法の善なるをも信する也、況んや今
日目前其活きたる好結果と見るハ、於て余や、況んや、
學上より此開發的教授法を分析し來るも、其人生自然に適合
するを發見するに於てハ、余輩は其好果によりて其好木た
るを判する也、非乎、
論者曰く小學校教育ハ、智、體、徳、の三教育を主る所、
的教授法を取る固より不可なかるべしと雖も、安息日學校
教育の目的ハ敬神愛隣の念を盛んならしむる外あらざる也
と、然り、余輩ハ固より論者の説を一度あらず二度までも考へ
たるなり、然るに論者ハ論者自ら論者の説を駁するものと言
ふべし、全體に可ならば其部分に可なるも明かあるとにあら
ずや、吾輩の思想必ず茲に至らざるべからざるハ、あらずや、論

理學の教ゆる所、又幾何學の確言もあらずや、夫れ安息日學校の教ゆる所、固より小學校と其趣を異すと雖も、黒と白との反對もあらず、唯多と少との差にして全くの反對もあらず、小學校に於ては、人生の三大部の教育を主ると雖も、安息日學校も於ては、唯其一大最要ある部分の教育即ち徳育に於るのみ、故に人生全部の教育に適合したる教授法にして、其一部ある徳育のみ適せずと言ふ、豈に普通の議論あらんや、已に然らば、何ぞ一時も早く此教授法——開發的教授法——を取りて、我安息日學校兒童の敬神愛隣の念を盛んせしめざる、何を苦んで此黄金の條科を取らざるや、余輩の速く我安息日學校教授法を改良して、開發的教授法を取られんとを熱望す、然とも如何なるもの果して此開發的教授法と云ふか、余輩の今より進んで開發的教授法の如何なるものかを記述せんとす、

第二章 教授法

第一課 編級法

第一下級

下の教へ能ふ所を標準として、上の七八年の兒女と以て組成すべし、此級に於ては、余輩實驗する處よりせば、男女共に同席にして之を教へて可なるか如し、否を却て混合教授法に、此級に於ては一層の趣味を男女生徒互に與ふるが如し、喜んで男生の女生に勝らんと務め、女生も又常に男生を勵まして共に勉めしむる如し、此級の其人數小數にして教ゆると殊に雅あり、大抵の人の此の少き兒女を何んと思ふか、甚た無頓着不親切を看過して、他の諸級より人敷を多く編じ、劣等の教員をして之を受持たしむると通常なるか如し、此れ過失の最大なるものにして、此級こそ此れ麥の荒搗とも稱すべき大切なり

る所ありて、於此級惡き慣習惡き思想を抱かしめたるとき、即ち先入主とありて三ツ子の魂七十五迄の謎の如く、生徒自ら其惡しき習慣を悟りたるとき、於てすら之を改むる能はず、況んや外來の勢力かや、況んや教員の教おや、故に此級に於てハ務めて丁寧着實の教員をして之を受持たしめ、一人ツ、細るゝ其性質を観察し、殊に其特性を観察して、之を教育すべし、此級殊に大切又教ゆべしとのとい、ペスタロッチエー、ゼヨホノツト、ノルゼント、も此最下級、即ち最幼の生徒を教授するに最も困難を取りたる事實を以て之を証明すべし、

ノルゼント曰ク初等學校之教師に適するの人才を得るゝは、卓越非凡の才識あるを要すと、此れ余輩の述べたる事と其意を同ふして我説を確むるものゝあらずや、

第二中級

ノルゼント氏の説

範圍

此級に於てハ八年以上十二三年のものを以て組織すべし、此級に於てハ實驗上男女其席を異にするこそ殊に雅なるか如し、其員數ハ下級より稍多きを加へて可なり、然とも此の兒は未だ八年に達せざるか故に此級に編入をべからずなと、其年齢を以て堅く制限を立つると甚だ惡し、唯共々教へ得る位置に達したるものハ、下級より此級に上級せしめ、或ハ直ちに編級して可あり、

第三上級

此級の十二三年以上十五六年迄のものを以て組織すべし、此級に於てハ男女其席を異にして之を教ゆべし、此れ男女兩生徒心意發達の有様を異にすればあり、此實驗上其利益を示せばあり、其教員又精撰せざるべからず、此れ此級の生徒は實に速に感化せらるゝものあればあり、此級の兒女ハ殊に直に教

此級の教員又精撰すべし

範圍

青年氣質
の差を生ず

員の影なるものあればあり、教員の心質舉動を外人も顯はして、賞を受くるも誹を受くるも殊に此級もあればなり、他日世間に出て、天晴なる青年と賞せらるゝも、卑々屈々なる青年と言ひるゝも、又此級の教育法如何もあればあり、豈も此級の教育法忽諸も付して可あらんや、將に兒女安息日學校の制度を脱して、成人の仲間入をする所、兒女安息日學校教育の終れば、其終結なれば、豈も之を忽諸に付して可ならんや、

結論

第四結論

斯くの如く兒女安息日學校を編級するとに付諸子諸家の間も異論異説なきもあらずと雖も、余の斯くの如く單簡なる編級法を取りとるもの、之を我國今日の兒童の情態も照し之れか教授法を定むるも、何年位の兒童の如何も教授すべき乎を示さん爲めの標準を定めんが爲なり、固より余輩は之を

唯標準

以て、完然なりとの信せずと雖も、唯其編級法の大要を示したるものたるのみあれば、他の細目に於て不適當のとあらば地方兒童發達の情態如何もより、之を參照編級するは校長其人も一任するのみ、

第二課教授法

下級教授法

此最下級を教ゆる最も注意せずんばあるべからず、此級の教授法程困難なるものはあかるべし、時間^は決^{して}長^{きに}失^すべ^{から}ず、兒童^の心^情を^始終^察せ^{ざる}べ^{から}ず、其^の體^の舉^動も^注意^せざるべ^{から}ず、此れ余り長きに過ぐるか、或は腦の己も疲れたることを知りて、直ちも其教授法を停止せざるべきの利益なくして將來の大害を醸すべければあり、
此級に於て何を教ゆべき乎、何を以て敬神愛隣の念を盛ます

此級の困

教具

掛圖の性質

今日の掛圖

スベンス
氏の説

べき乎、余輩の掛圖及びカードの二を以て其目的を達すべしと云ふ、

(一) 掛圖 聖書中の人物、器具、地方、等兒童の解し易き、最も短一鮮明なるものよし、之の適當なる彩色と施したるもの、其長さ四尺内外、幅三尺内外ならば可なり、今日各教會に於て用ゆる所のもの、大抵外國製粗末の品質、其色彩又複雑曖昧なるものなり、斯くの如きもの、兒童の趣味を感じて注意を起さるのみならず、却て大に兒女をして見るを嫌惡せしむるに至る、故に鮮明簡短に彩色を施したるものを以て却て可とす如何とされ、此級の兒女の複雑にして光線の取様、彩色は施し様、等と注意したる繪畫よりも、鮮明短一のものより付て大に趣味を感じられ、斯氏曰、教育の單より複、進めど、此れ此意、外ならず、蓋し兒童始め單を知り、次に複を知るもの、され

カードの性質

從來のカード

添畫の目的

ばなり

(二) カード 余輩の用ひんとするカードは從來用ひ來りしものにあらざり、單一の文字(例へば人、神、罪)より二三の明白なる文字を記し、而して共に其字義の畫を添へたるものと、從來用ひ來りし、カードの畫、大抵殊に舶來のもの多し、其表面に記載しある文字と反對して無罪なる美術心力を養成する方法の如く、徒にアメリカの兒戲、アメリカの野景、アメリカの會堂の光景、雪景、等を添へ畫きたるが故、却て兒女をして之と迷ひしめたる、余輩數々目撃したる所なり、故に曰く、字義の畫を添へよと、元來添畫の目的たる、其意義を十分説明する爲め、其意義を容易に記憶せしむる爲めに外ならざれ、其添畫ふして其文字と反對し、或は文字外の意を顯すと、きは、已に其目的を過たるものにして、其添畫の目的よりも、却て兒女

マッコス氏の説

教カレルタの添書

掛圖面

を迷ひしむるの職務をなしたるが如し、而して添書の又前掛圖の如く鮮明短一を可とす、此れ多くの哲學者等、兒童心意發達の順序を研究して、後ち得たる斷案、報告よして、大抵今日、心理學者の一致する所なり、米國現今有名なる心理學者マッコスも曰く、兒童の記號心力を養成せんとせば、單より進めど、近頃教のカレルタなるものあり、余輩は其添書の甚た適當せるを嘆美するものなり、

(三) 掛圖の教授法

掛圖面の、主キリストの身邊に無罪にして愛すへき嬰兒の數多が、集りキリストより祝福を受けつゝあるとを畫きたると假定せよ、以下皆假定なり凡そ添書は掛圖カードを論せず、何分兒女等の感情を動し易きもの、即ち此圖面の嬰兒の畫の如く同感を惹き易きものと善とす、

教師の容貌

掛圖を掛ける時

生徒の心意

今日の教室

教師 先づ單短に兒女等と嚴三和二の顔貌を以て其能く勵んで來校せしとを賞譽すへし、

掛圖を掛ける時の心得 掛圖の其教へんとする前、已に其教員の前より持來られざるべからず、其教へんとする前より、教師其生徒等の目前を去り之を求めんが爲めに圖書館に行かんとするの如き、甚だ不可なりとす、蓋し此今學の用として用意しつゝある生徒の注意を散せしむるの嫌あるものなればなり、然のみならず、此掛圖を掛ける些の時間すら生徒の心意を他より向ひしむると甚た不可なり、看よ生徒の心意の之を掛けんとする一瞬時も、若し之を放任し置り、其注意を他に向けんとするの傾向あるを、殊も今日の如き不完全極る教室あれば、即ち數級一會堂内に於て同時より教ゆるものなれば、即ち嬰女等の注意を他より向くる媒介われ、必ず其注意を他に向

兒女の心
意は一時
も空虚な
る存する
能はず

くるや必せり、蓋し此れ兒女の心意の一時も空虚も存在する能はざるものにして、黒に注意せざるは白に注意せざるへのせられたるものあり、故に之をして他に向けしめざる爲めに先づ問と掛け置くべし、然ども初めより誰さんと指名せず、全生徒又問ふあり、例へば神は何處に在すやと、温和丁寧
に問掛け置き、直ち即ち生徒の考へつゝある間、掛圖の位置を正しく掛くるあり、此れ蓋し位置を正しく掛くると否とは德育教授法に大關係を有するものにして、即ち之を正しく掛くるときは嚴肅の意を生せしむるも、然らざるときは之を輕んじ之を嫌ふに至るものなり、明治二十二年頃より小學校教員の袴を着する、其不整なるの不可なりと論じ始めたるも、此道理によるものなり、斯くの如くして掛け終るや、先づ先き

正しく掛
けよ

掛圖教師
の本領

の質問の答を求む、即ち此時全生徒を眺めつゝ誰さんと指名す
生徒 指名せられたる生徒 天に在ますと答へよりと假定す
以下皆仮定ナリ
教師 直ちに之を然りと言ひず、先づ之か判決を生徒一般に求め、即ち教師誰さんの言ふたるを可とするもの、左手を舉示せよと命す、
生徒 一同舉手して其同意を示す、然る後
教師 之を然りと云ふ、知らざるときは教師簡短に丁寧之を説明し、後ち此圖の解釋を始るなり、
教師 先づ全生徒の注意を惹き起さんか爲め、教鞭を取りキリストの圖の顔に指す、漸時全生徒を見渡し、後茫然としてある生徒ありと假定せよ、直ちに其生徒を指名して此人の誰

なりやと問ふ、然れども指名せんとするときは、指名する生徒の方を見ず、却て他の注意をしつゝある生徒の面を見つゝ指名するを善とす、然れども常に唯此同法のみを用ゆべからず、時として之と反対の方法よるを善とす、

生徒 キリストなりと云ふ、

教師 全生徒一同は其判定を求めんか爲めよ

誰さん 同意のものは舉手せよと云ふ、預め教めべし、指名せられざる間の誰も決して一言も妄りに放つ勿れと、許すあくして放つ勿れと、

生徒 一同其同意を表して舉手す、

教師 然り諸生の言ふ通りなり、諸生の能くあてたりと賞譽す、

教師 此人の今世界に存在するやと問ふ、又問を全生徒ふか

けたる漸時の後、高橋さんと指名す、

生徒 今の此世界よあらざるも天父の傍よありと答ふ、

教師 又之を全生徒に其判決を求む、誰さんと同意の人の

左手を舉げよと命す、

生徒 一同黙して教師の面を仰き見つゝ其同意を表して舉手す、

教師 然りと云ふて、其判決の正なるを教可す(教可とい教師が可と認むとの意なり)

注意

教師の時々生徒の能くあてたるを大に賞譽すべし、此れ生徒よ取りて、殊に此級の生徒よ取りて、非常の樂よして、人生自然の樂なり、受教の趣味を加へ時の過ぐるを知らざらしむ、此れ教授の一大秘訣なり、
教師 此人何年、何處に生れ何をなせしやと問ふ、

生徒を賞
譽すること

質問の仕

注意

質問の漸次繁よ進むを可とす、此れ生徒を識らず知らずの間に導くの方法あり、例への始めは唯誰かと、次に少しく複雑に即ち何年何處に生れ何をあせしや等の如く其質問の仕方斯くの如く漸次進歩せしむへし、

漸時の後 佐藤さん と指命す、

生徒 黙然か、或は知らずと云ふたりと假定せよ、

教師 又之を他の生徒の一人に指名す、

生徒 昔千八百年許前にコタヤよ生れ、人々の爲めに十字架に釘殺せられたりと答ふ、

教師 又之を一同の判定を求む、

注意

此は今日の要點なり今日教へんとする教義なりと思ふ條所

教授法の秘訣

殊よ大に生徒一同の判決を求むべし、

生徒 或は擧手す、或は否と假定せよ、

教師 然り佐藤さんの言ふ通りであると教可す、

注意

何分生徒の言ふるを消滅せしめず、之を適用して兒童を失望せしめず、却て兒童を奨励するとの、教授法の一大秘訣あり、

教師 生徒の言ふたる事に加へて、少しく精しく其要點を説明すべし、

注意

此處の要點今日の教ゆる骨髄なりと思ふとき、教師は能く解を易き言語快活ある言語を以て説明すべし、

教師 更よキリストの傍よある嬰兒に教鞭を指して曰く、此

要點の能く説くべし

處にキリストの圍りゝ居るものゝ犬の子なりや、人の子ありやど、問ふ知り居るものゝ舉手せよと命す、

注意

此れ生徒の注意を惹き起し爲めよ時の宜しきを圖りて斯くの如き反對の言語を以て質問すると必要なり、蓋し此の如き質問の以上述べ來れる質問と全く反對且つ奇異なるを以て心意運用の作用に變更を與へ、爲めよ疲嫌の時を慰め、兒童をして快愈に其時の過ぐるを知らざらしむるものなればなり、
生徒 一同笑を含みあから黙して舉手す、

教師 或一生を指名す、

注意

斯くの如き容易き問の今まで一も知らざるが故にいかよも耻かしそうゝして居たる生徒を指名するを殊に善しとす、

奇異の質問

變化の疲勞を感ず

生徒の答

生徒 嬰兒等なると答ふ、

注意

教師の常々生徒をして其答を簡よして明答することを習慣せしむへし、

教師 誰さん然るのと或一生に問ふ、

注意

教師の時として少しく其全生徒の判決を求むるの趣を變へて直ちよ或劣生一人を指名して其判決を求むべし、
生徒 指名せられざる生徒然りと答ふ、

斯の如く生徒に問ひつゝ進み(教師は何分言はずして生徒自らに言ひしむるを開發主義教授法に合ふものと云ふ)
終りふ短るに明かよ其要點を総括して生徒各自の記憶せしむべし、次の安息日よ之を試み問ふとを約すべし、

生徒をして言はしめよ

種々の場
合を示し
たり

終りて
教師 諸生皆能く出来たるとを賞譽すべし、此時始めて十分
の温顔を示すべし、
以上列記したる掛圖の教授法の教師たるもの此級を教へん
とするの際に於て必ず此順序を進めと言ふにあらす、唯此級
兒女を教授せんとするの際色々の場合あるとを示して、其色
々の場合の適用と記したるのみなれば、必ず第一に生徒一同
舉手するものなり、第二生徒或は舉手し或は否ふするものな
りと極りたるものにあらざるなり、去れは兵法通り敵兵進み
來らざるも兵法を答ひる勿れ、余輩は唯此級中より起るべき凡
ての場合を打雜せて其臨機應變の教授法種々の場合の教授
法を示したるのみ、
以上述べたる事の最下幼生を教ゆるの法なるが、余輩は大に

誘導法
よらざれ
ば記憶せ
しむるに
難し、

暗誦的教
授の害

之を實地に施して其好果を見ざるものあり否な余輩は斯く
の如き誘導法に因らざれば之を記せしむる能はず、之を記せ
しむる能はざるべきは精神に存せしむる能はず、精神を存せ
しむる能はざるべきは之を活用せしむる能はざるを信するなり、
余輩は斯くの如くにして最幼生に向てキリスト教の大意を
知らしめキリストの愛すべき神と人とを愛すべきと等の教
義を簡明に知らしむるを得べし、彼の難澁なる安息日學校
入門との舊約史記問答とか難澁なる文字と記したる教札よ
よりて、暗誦的は私は罪がおりますと、或は器械的は神さま
の世界を造りましたとか、妄注的にキリストは我等の救主で
ありますとの等を教へて其本文の字通りを暗誦せしむるか
爲め其腦を疲れしめ、第一に大切なるキリスト教の精神を
忘れしむるの弊と避くるとを得べし、余輩の大に嫌ふて改良

掛圖教授
は暗誦的
に授けらる

せんとするより此の如き記性養成法とも云ふべき、口頭得識
 的無暗的器械的注入的の教授法を去り徳の教育を活用せん
 となり、活けるキリスト教の精神を吹込み其字義を覺へたる
 や否やを問はず問答の際知らず識らず自然にキリスト教の
 精神を會得せしめ其感化を受けしめんとなり、而して斯の如
 き掛圖は大に其目的を満足せしむるに足るものなりと信ず
 るなり、獨り余輩の實驗其信を堅ふせむるのみならず、歐米
 有名の諸大家の實驗其間又大差なく、益余輩をして此法およ
 るの他方より勝るとを信せしむ、
 四カードの教授法
 余輩が編級せし此最幼級即ち最幼年より七八年までの一群
 の兒女なれば、數ヶ月或は年を経て自然進歩發達の度を異と
 にし、兄弟を生じ、伯仲を起すと、避くべからざるにして、之を

兒童各發
達の度を
異とする

教育の本
意

して其間兄弟を生せず伯仲を起さしめんとするに恰も
 人の天性を均一ならしめんと企つる事と同一にして、所謂天
 理と逆ひ人性の情態を明かよせざるものにして之を均一な
 らしむるに人性を損ふものと云ふも不可あるべし、教育の
 人間をして自然に發達せしむるを貴とするものにして、決し
 て之に逆ひ其性を損ひて或る事物を妄り注入すべきもの
 よからざる也、故に此等とも關せず、無頓着にして人性に逆ひ
 之を均一ならしめんとせば、兒童の心情の自然發達を遏停せ
 しむるか、兒童をして來校するを好まざらしむるか、或は級中
 の生徒を靜肅ならしめざるかの弊に陥るべし、故に發達の有
 様より從て此級を二分せざるを得ざる場合に至らば二分すべ
 し、三分せざるを得ざるの場合に至らば之を三分するも可な
 り、然とも此年限此級よめるの間は殊に暗誦的を去り、難澁的を

兒童欠席
の原因

避け、児童をして快愉に趣味を感じせしむる様に教へざるへからず、心理學上より之を分解せしむる様に教へざるへは、感動す、感動せしもの、深く注意す、深く注意せしもの、必ず長く記憶す、記憶せぬもの、精神を存し、精神を存したるもの、之を行ふべし、或有名なる教育家の語に曰く記憶になきものと精神にあるなしと是れあり、故に児童をしてキリスト教を言ふものゝわらず、行ふものとなさしめんとせば、其教授の方法も於て趣味を感じせしむると最も必要なり、此年限もある児童をして趣味を感じせしむる簡短なるものは掛圖の類に若くものなかるべし、然ども又児童の天性變化を好むものなることを忘る可からず、始め掛圖を教られ已む之を卒業す、已に之は飽たる時お於ても、尙掛圖を教へ續げて變化を與へざれば、自然又無味淡泊児童をして其趣

味を感じせしむると難きか故に此等の掛圖と趣を異ししたるものにして此掛圖と趣味を同ふするものを求めざる可からず、之を教のカルタも求めんか可なるべし、其教授の方法によりて之を組地圖に求めん乎可なるべし、然れども先に余輩が示したるカードの趣味あるも若かさるべし、否亦余輩の實に他の教科具を用ゆるよりも其功あるとを實驗したり、故に余輩の初級カードの教授法として一篇の蕪言を陳述すべし、先づ教師の児童をして圍坐せしめ、教師自らも其列の一人となりて坐すべし、然れども教師の常お保つべき顔色の嚴三和の何を教ゆべしと、其題を預告す、罪と云ふ題と假定す、而して其題によりて尤も簡明も其大意を快談す、終りて全生徒一般に問をかける、

教師の權
威を増す
の法

教師 教師の、今諸生に對して談せしことに付其所感を述ぶべしと命す、

注意 教師の常々其教ゆる兒童に對して自ら教師が、或の先生が、なる語を言ふべし、此れ多くの教育家が實驗上其教授に威權を添ふるものあるを教告せし處にして、四五年以來各小學校に於て之を用ゆるを見ても知り得べし、斯く問を全生徒一般にかけると同時に起ちて生徒各自の前より至り、今日教へんとするカードを與ふべし、與へ終るや否や、所感を述べ得るもの、舉手せよと命す、

生徒 舉手す、

教師 其數の宜しきを謀りて漸次に述べしむべし、

生徒 指名せられたるもの共漸次或は罪の重荷の如し、或もの罪あれ、地獄に陥る、或もの罪のキリストの惡み給ふ

生徒の臆
病ヲ癒セ

ものと云へ諸生の答紛たるべし、

注意 生徒が教師或は大衆の目前に於て臆せず、演述せざる、家庭、教育の宣を得ざる多き居る、即ち其父兄等が徒ら其子女を嚇し、あり、恐れしむるあり、其子女の小過失を大に咎むるあり、之を叱して臆病者とならしめたるあり、安息日學校教師に此等の惡弊を矯正するの重任を負ふものあれば、務めて兒女をして衆生及教師の前にお於て大胆に演せしむるの良習慣を造らしめよ、而して其矯正法の何分其の演じたる處を賞譽するあり、自由に自立に演述せしむるあり、決してそれ過つたと、口々お咎めず、何分生徒の演述せし處を消滅せしめず、之を唯修正して用ゆるにあり、

教師 此時教師の其平均點を取りて約言して罪の價の死あり、

臆病療治
法

り。ど。り。罪。の。死。を。招。く。と。か。何。れ。か。カ。ー。ド。文。字。に。近。き。意。を。言。顯。し。て。之。を。説。明。す。べ。し。此。點。の。最。も。大。切。の。所。今。日。教。へ。ん。と。す。る。主。意。あ。る。よ。り。明。ら。ま。短。か。に。解。明。す。べ。し。而。し。て。後。カ。ー。ド。を。取。り。て。之。を。教。ゆ。べ。し。然。れ。ど。も。此。時。已。に。已。お。兒。童。等。は。カ。ー。ド。の。意。を。了。解。し。居。れ。ば。快。談。壯。語。の。間。に。知。ら。ず。識。ら。ず。教。へ。た。れ。ば。彼。の。暗。誦。的。教。授。よ。り。も。兒。童。を。し。て。容。易。に。了。解。せ。し。む。る。を。得。べ。し。彼。の。注。入。的。教。授。よ。り。も。面。白。く。早。く。キ。リ。ス。ト。教。の。義。を。了。解。せ。し。む。る。こ。と。を。得。べ。し。

法方教授

教師 今日ハ此カードを教ゆべしと告げ、カードの上にある文字(罪の價の死なり、此ハ少シク難義なるも唯其例として示せしのみ)を讀めるものハ舉手せよと命ぜ、

生徒 或る生徒二三名舉手す

注意 若し不幸おして全生徒讀めざるときハ、教師明白に讀

其習慣

むべし讀むこと二三度及ぶべし、

教師 其中最も讀み難あるべしと思ふ生徒ハ指名して之を讀ましむ、

生徒 讀む、

注意 教師ハ生徒をして常々明白ハ高聲に讀むの善き習慣と衆人の前ハ於て臆せず讀むの良慣習を養成すべし、

教師 一生の讀みさる處謬なきや否やを問ふ、

生徒 指名せられたる諸生皆其誤あきを証す、

教師 然り誤謬あしと云ふて、更に教師自ら之を讀む二三度及ぶべし、

注意 已(讀むことのみ)大抵覺へたるべしと思ふ時を圖り誰生かをして講義せしむ、然れども讀むことを教ゆるの際ハ注意して専ら讀書を教ふる教授法の如きハ陷る勿れ、

諸人の陥り易きハ此點あり深く注意せざるべからず、
教師 諸生の中誰か此字義を意釋するものありやあらば舉
手せよと命ず、

生徒 大抵舉手と蓋し此時已ハ前に於て(談話の際に於て)解
解せしものなればあり、

教師劣生を指名して其大意を講すべしと命ず、

生徒 生。等。罪。あ。ま。ば。無。窮。の。死。を。招。く。と。の。意。な。り。と。講。ず、

教師 一同の判決を求む、

生徒 皆同意を表す、

教師 教師が前に談せし如く、今一生の講じたる如く、罪ハ實
ハ死を招くものなれば決して罪を犯すべからずと教訓す、
且ハ虚言、不孝、不信、不慈等ハ罪あれば決して之を犯すべから
ざることを説明す、終りて教師生徒問答の間ハ其要點を摘出

活例を列
舉せよ

習慣の第
二の天性

して之を記憶せしむべし、

而して後ち次の安息日に必ず問ふ故ハ之を忘れざる様にす
べきことを勸告す、寧ろハ命令しべし、

注意 慥かハ約束すべし、而して、必モ次に之を問ふべし、兒童
をして常に必ず問はるゝものなりとの習慣を養成するものと
必要なり、彼等の心意ハ或事物の習慣すればする程之をあす
容易き故ハ自ら好んで之をあそむ至るべし

教師も心に快よく生徒も心ハ快を感じて次の日曜日ハ
ハ必ず又喜び來りて教を受けん、

第三課教授法

第二 中級教授法

己ハ掛圖及びカードよりて假令ハ不完全なりと雖どもキ

リスト教の大意を了解せんとされば、此級教授の要は下級より稍々高尚にして少しく精密キリスト教の大意精神を説明するにあれば、第一、聖書の容易に了解し易き部分にして其大意を略知す得べきもの、即ち路加傳の馬太傳かの如き概略福音書の一を撰び之よりて教ゆると、第二、カードを用ゆると、此れは少しく下級より字數多く其意義稍複雑なるものにして、其添書又清白簡短な書きしものと以て善しとす、

(一) 聖生教法

聖書を教へんとする徒は聖書を記載せるものと記憶せしむるの目的をわらさず、聖書の雅句を暗誦せしむるの目的をわらさず、故にヨルダン河畔の景色を解くは其主たる目的にあらず、エルサレム城址を見るか如く愉快な説明して生徒を悦服せしむる又主たる目的をわらさず、唯聖書を以てキリスト教の精神

を教ゆるにあり、聖書を以て生徒の精神を形成するにあり、キリスト教の感化するにあり、要するに唯聖書を以て敬神如己愛隣の念を盛ならしむるにあり、此れ諸人の知れる所あり、雖ども、動もすれば聖書を暗誦的教授を以て之を暗誦せしむるの人多きを見るに實に嘆息すべきことにあらずや、

生徒 時刻の至れるによりて各自の席に着く、

注意教師の常に生徒を教ゆるに規律正しくすべきことを以てすべし、殊に時の如き、正確か之を守り、毫末も之を破るべからざるものなりとの習慣を養成すべし、

教師 至る、

生徒 敬禮を表す、

教師 又首肯す、

教師 今日教へんとする所の聖書の大意を短明に説明すべ

し、後ち

注意、教師の今日教へんとする事を預め十分に研究し置かざるべからず然らざれば十分に演述する能はず、十分演述する能はざれば又生徒をして十分了解せしむる能はず、十分了解せしめざるべきは行ひしむる能ひを、注意若し前の安息日又於て教へたる事れ復習すべきものあらば劣等生を指名して之を述べしむべし、夫れ復習の兒童必要なり、蓋し兒童の復習よりて以前に解せざることをも了解するとのわればなり、前ふ感せざることをも深く感動を惹起すとわればなり、然れども余輩の小學校教育に於ける修身書復習の如く、器械的復習に陥り、毫も生徒の利益を興へざる、趣味を感ぜしめざる所の復習に陥らざる様注意せられんことを望む、

教師 先つ聖書何の卷、何章、即ち何ページ目を開くべきことを命ず、

生徒 一同開卷す、

教師 何節を、誰さん讀でと命ず、

注意、何節と云ふことを最初と言ひ、誰さん讀んでと云ふことを次々漸時間を隔てて言ふべし、此れ全生徒一般に注意せしめ而して後ちに一生に殊に讀ましむるの法あり、注意、聖書を讀ましむるときに其級劣等の生徒は最初に讀ましむべし、其讀ましむる所の節の其意味容易なる節其字數尤も小數ある節なるを善しとす、決して其節の順序を追ふを要せんや、而して其讀みたる所は其生徒自ら起ちて講す、且つ自ら他人が其節を對して質問したる時ハ之を辨答するの責任あることを教へ置くべし、

生徒 生徒即ち劣生讀む、

教師 又次の劣生も讀むべきを命す、

注意、漸次斯くの如く順序を逐はず、唯其意の難易字數の多少によつて其生徒各自の力量に應じて讀むべき節を抽出して讀むべきことを命すべし、

生徒 全生徒漸次斯くの如く其節の順序に係らず全く讀み了りし也、後ち

教師 自ら聲高ぶる小全生徒の不順序も讀み去りたる數節を、其順序を正ふして讀むこと二三度お至る、后ち

教師 先づ劣生に其受授の節の大意を講すべきことを命す、生徒 最初の劣生初め已の讀みし節の大意を講す、

先づ大意を説明し置く

注意、劣生と雖も之を講じ得る様に最初も於て教師其大意を明かに説明し置くべし、且つ必ず講せざるべからざるも

のと習慣せしむべし、

教師 今講せし節意に付不審ある人々の舉手すべしと命す、

生徒 三四のもの舉手せしものと假定す、

教師 三四の舉手者の中の劣生に、講者に向て質問すべきことを命す

生徒 指名せられたる生徒、講じたる生徒も質問す、生徒 講じたる生徒之に答ふ、終るや否又尙ほ

教師 其他の生徒等に不審あるや、否を問ふ、あらば最初の順序の如く生徒をして生徒に答へしむべし、

注意、茲も注意せざるべからざることに時間を浪費するよとなり、徒も生徒相互として其異見を戦はし、或は辨難攻撃せしむること是有り、生徒互に攻撃反辨する事も或度まで

茲に注意を要す

の大い獎勵せざるべからず若し大い此點に付注意を取らざるるときは生徒各互の不快不和を醸すのみあらざ、時間を浪費して眞理を發見するの其目的外は好まじらざる惡果を得るに至るべし、固より此級位に於ては其討論も少々なかるべしと雖ども上級に進むに従て、教師たるもの大い茲に注意を取らざるべからざる也、

大意を摘
書せよ

若し生徒各互の間に討論の後何れが是非なるを決し難きの場合に於ては、教師之が判者となり明白なる判決を與ふべし、
順次如斯くして全生徒各其受持の節を講じ終るや、教師は此等の節の大意を講じて、后ち大切の要點を摘書して(黑板上)之を記憶し便せしめんか爲めに各自所有の手帳に書取らしめ、后ち次の安息日、於て其大意を質問することを約束し

黑板の効
用

て散るべし、

黑板 余輩の安息日學校に於ても各級一般は一個の黑板を有せると誠に大切の事と感せらるゝあり、若し之のわらひ歌を書きと得べし、若し之のわらひ聖句を摘書するを得べし、若し之のわらひ言語の及ばざる所を圖を引き、畫を畫きて、其意を補ふを得べし、若し之れわらひ兒童に了解し易き廣告をなすを得べし、黑板の用豈は莫大ならずや、

其大小

其大小の如き種々あるべしと雖ども、其長さ四尺巾三尺計の杉松の板を以て最も雅とす、

手帳の効
用

手帳 中級以上の生徒各自十枚或は十五六枚を以て綴りたる手帳を所持せしむべし、若し之れわらひ記憶せざるべからざる聖句を書取らしむるとを得べし、時として演舌の大意を取り書らしむるとを得べし、生徒互に談じたる有益同

感の事項を筆記せしむるを得べし、手帳の効用豈大ならずや貪賤よして買求むると能はざるものよ、或機會を得て賞與品として與ふるを善しとす、

カード教授の本領

(二) カード教授法

此級に於て教ゆるもの、前級に於て已に教へたるものよりも稍高尚のものあれば従てカードも此目的に適用したるものならざるへからず、

カード面上の文字を汝の敵を愛せよとあると假定せよ、

教師 先つ今日教へんとする大意を最も短簡明晰に説明して後ち直ち活用問題を掛ける、

教師 諸生の最も惡むべき敵を持てりやと問ふ、

生徒 一同舉手して其持てるを示せりと假定す、

教師の大

注意、然とも常は教師たるもの寛容なる性質を兒童に示す

活用問題の應用

よわらざるよりの自白の勇氣を消滅せしむべし、

教師 一生を指名して其敵とありし來歴を問ふ、

注意、斯くの如き活用問題の實地に應用すべきものなれば實際常は敵を持てるものと考らるゝ生徒に殊に指名するを善しとす、

生徒 其來歴を演述して今に於ても敵視する由を言顯す、

妄ふ生徒を叱する

注意、教師若し徒ふ之はキリスト教理に背戾せり、之を改めよと叱り、或は之れは不正なり、故に汝の不正なりと辱め叱りなどしては、生徒自由正直の念を變じて狡猾詐欺の人とあすべし、豈に茲に注意せずして可ならんや、とい我輩

一己人の私言あらず有名なる教育家の教訓なり、
教師 諸生よ、誰某さんの通り敵を惡むとい義しきや否や答へ得るもの、舉手せよと命ず、

生徒 一同舉手して其答へ得るを示す、蓋し此時已も前の教

話より愛すべきこと知りたればなり、

教師 一生を指名す、殊も前に生の今に於て尙や敵視し居る

ありと言顯いせし生徒を指名するを善しとす、

生徒 愛せねば不可あり、

教師 一同の生徒も其判決を求む、

教師 一同其同意を表す、

教師 諸生殊も誰某さんの言ひ顯した通り愛せざるべから

す、然とも行之のよ從いざれを如何と直お前の一生即ち敵を持

てる生徒を直に指名す、

生徒 行之のよ從いざるべからずと答ふ、

教師 又全生徒の判決を求む、

生徒 一同々意を表す、

賞品授與
の注意

教師 然り諸生の思ふ如く敵を愛せざるべからずと言ひ終りて、古今東西の事實を以て尙は精しく之を説明すべし、

但し簡單なる事實を善しとす、

終りて、後ち

教師 カードの文字を讀むと二三度劣生より順次之を讀ま

しむ、

最終に此週間に於て最も高貴なる行、即ち汝の敵を愛し來り

て其喜びの音を傳ふるものよ、何々の賞品を與ふべしと約

束すべし、然とも妄りも與ふるとい必す害あり、謹むべし

ナルセント曰く褒賞を争ふより起る奮競の鄙心惡念を生

まゐるの患ありと、

然り我等茲も注意せずして可ならんや、況んや道德の念を專

ら盛からしむるの場所お於ておや、

注意、各高貴ある行をなしたる報道の全安息日學校集會に於て述べしむべし、此れ蓋し各級生徒を益すると寧からざればなり、生徒等各其報道をなし終るや、教師自ら起ちて之を賞譽して又各級生徒に其活きたるキリスト教徒の活きたる行ある筈なるとを教へ各自又勉めて之を試むべきとを勸告すべし、

女生への教師を可とす

女生徒の級も敢て其教法を異にするを要せず、唯教員の女たるを要す、(此れ現今の教育社會の問題あるか余輩の女子教育への女教師其適當せるとを信する也)若し之を得る能ざるの場合に於ては徳實君子風の男教師を以て之に充つべし、忘るゝ勿れ女性に柔和温厚あるとを、

第四課教授法

第三上級教授法

教科書

此級に於ては尙稍高尚なキリスト教の大意を教ゆべし、

- (一) 教科書 (一) 聖書ヨハ子傳ロマ書コリント書創世記の如きもの、(二) 容易なる神學書類、目下邦語あてゑる故に有神論、基督神子論、天地創造論、神性論、神學略説、組織神學等の要點を摘出して教ゆると可あるべし、(三) 聖書の附屬書類、聖書地名、聖書人名、聖地故事、聖書附録等の如き聖書を學ぶ助手となるべきもの、

何れの級も安息日學校教育の目的に敬神如己愛隣の念を盛あらしむる爲め、聖書を教ゆるに外ならざれば、此級に於ても結局の目的は聖書あり、他の二三の書類に能く了解する様正しく聖書の智識を興ふる爲めの助手となすのみなれば、

聖書を重とす

之れ等の附屬教科書も重を置くか、或は專ら此等の附屬教科書を教ゆるに於ては、已に其目的の範圍を脱したる教授と云ふべし、

注意すべし

(二) 聖書の教授法

此級聖書の教授法の殊更に前級と異にするべきの必要なしと雖ども、唯少しく茲に注意すべきは少しく高尚に解釋するあり、然ども又常に注意すべきは其此級生徒の了解するの度を知りて其度に適する様を之を解釋するにあり、其他凡て教授法は於て前級と異にするの必要ありるべし、

(三) 容易なる神學書の教授法

此れ固より正式に教ゆるの主意にあらざる也、神學生を養成するの目的にあらざると雖ども、神の存在、神性、罪、救、信仰、等にして殊に解釋せんか爲めに學術的、神學的に智識的、教

生徒の傳導を付

へんか爲めに設けたるの、殊に此級の生徒の年限に至りて最早同輩を導き得べきによりて、之を智識的、組織的にキリスト教の大意を教ゆるの必要を見る也、

教師 諸生の神の存在を信するや、

生徒 一同擧手して其信するを示す、

教師 其劣生を指名して之を証明すべきことを命ず、

生徒 信すると雖ども劣生并に優生共に其證明をなし得ざるものと假定せよ故に黙然たり、

大切の問題は嚴密を要す

注意、教師の常に生徒に向て大切の問題を論ずるに當り輕忽に發言すべからざるとを教ゆべし、少くも確かなる事、確かな明に言ふべきことを教ゆべし、不確かなるを長たらしく論ずるより、少しの確かなるを確かに論じ、且つ言顯すとの良習慣を養成せしむべし、

教師 簡明に要點を摘出して之を説明すべし、例を以てする
 と殊に雅なり、而して后要點を黑板に摘書して筆記せしむべ
 し、又次の安息日に誰々は有神論者、某々の無神論者と指名
 して廿五六分時の討論すべきことを命するか、或は優等生の一
 人に向て其要點を演述すべきことを命すべし、如是にして隔週
 輪番に他の附屬書と、聖書を教へたる后ち於て教ゆべし、然
 ども茲に最も用心すべきハ、マインドを以て神事を論ずるも
 ハ、トを以て常に神を愛敬すべき様を導教するにあり、神の
 事を論ずるも又決して不敬の語を吐くべからざることを堅く
 教へざるべからず、神の事を論ずるも敬神の念を盛ならしむ
 る基礎を堅よするの外目的なきことを教訓すべし、此れ最も教
 師たるものと注意警誡すべき要點なりとす、
 聖書地理、聖書人名を教ゆるも當りても其教授法敢て聖書教

最も用心
すべき點

附屬書教
授法

授法及びカード教授法と異するの必要なし、唯々聖書を教
 へたる後ちに於て傍ら教ゆる精神を以て之を志すべきのみ
 余輩恒に必要を感じて之を各教會の兄弟に勧めんとを望む
 ものは、此等の級及び此等級生と其發達を等ふする生徒に向
 て聖書及其他附屬書を教へたる后、十分或二十分時間毎安息
 日お於て特別に此級お於て此級に適したる古今東西の人傑
 の篤信、堅志、德行、強意、忍耐、博愛の言行を演述するとは是なり、
 兒童の感情は鋭敏にして同情同感の性お於て又敏あり、殊に
 摸擬し易き性質を特有すれば、古往今來の俊邁の佳傳奇談の
 摸範とすべきものを示さば其功少からざるは我邦從來の歴
 史及今日教育家の實驗之か疑なきを教告する也、看よ儒教の
 我邦に勢力ありしを、何故に勢力を有せしむ其基本とする所
 の即ち君君、臣臣、父父、子子、と教へて唯忠と孝との二字なる冷

殊別の質
事口述

兒童の摸
擬の動物
なり

儒教の勢
力ありし
理由

淡ある教理に外あらざるよわらせや、然とも不思議よも長く我臣民の原勢となり元氣とありて我臣民を支配したるは何故りや、其原因固より一よして足らずと雖とも、要する所、卑近實着實際的よ實事話を以て其模範を示したる唯一特別の手段を用ひたるに依らずんばあらざる也、是れ儒者が孝子の門を叩き、慈腸博愛の仁人を訪ね、其奇行佳言を集ひよ致々たる以所おして、我國小學校用修身書に實地的卑近の行爲を多く記載せられざる以所なるべし、此れ余輩の特別よ此級生よ向て此級生に適したる實地可得行的の實事を演述せられんとを勸むる所以なり、

余輩は獨り此實事口演、美談演述、を此級生よのみ限らせ、協同集會(此れハ各級各其課業を終りて一の講堂お集り即ち始業及散會の前二三分よて共に祈り共よ歌ふ所の會、校長之れ

の司會たり)よ於て各級普通に了解する各級普通に適當ある程度よ於て述ぶるとの有益必要なることを認むるあり、故に余輩ハ一步を進めて協同集會よ於て各級生よ適當せる美談實事を演ずるの心得方法を記せんとす、

第三章 實事口述法

家事口演
專任教師

題

教師 先つ今日談せんとする事實の問題を黑板上よ書すべし、
 注意、教師中より有徳温厚れ人を舉撰して常よ每安息日
 よ此事のみを専ら主らしむべし、其美談、奇話、奇行、を集むる
 丈の勞ハ各教員之を擔ふも敢て不可あかるべし、蓋し有徳
 の教師よあらざれば生徒を感化せしむると能ハざるのみ
 ならず、却て害を與るの患おればあり、
 例へばワシントンの改悔を教へんとせば題を左の如く書す
 べし、

ワシントンのはなし、

教師 之を讀めるものハ舉手せよと命す、
 生徒 指名せられたる生徒之を讀む、
 教師 今日ハワシントンが或惡事をなせしことを其父よ自白

解能よす
る秘法

せる始末を語るべし、依て願くハ諸生漸時の間何分靜肅にあ
 らんとを乞ふと云て、暫時口を閉ちて全生徒を見渡す、然ると
 きは全生徒一般靜肅よあると妙あり、

教師 ワシントンの何年何國よ生れざる人なるを、知れるも
 のハ舉手せよと命す、

生徒 一同或ハ過半舉手して其知れるを示す、

教師 之を劣生に問ふ、或ハ全生徒に其判決を求むると前例
 と同じ、

教師 先生の今日諸生に向て此人の一代記の或る部分其幼
 年の時の或美話米人の喜ハ聞く處、歐州人の贖する所の一美
 談と話すべし、

偕てワシントン年未だ幼稚にして世の中の經驗を経ざるとき
 又、一ツの小さな斧を得たり、喜ぶと甚しく最も大切に之

ワシント
ンの美談

を保存せり、然ども如何うして其切れ味を知らんとを願たりしか、或る日のとありし近隣の児童と戦争の戯をなすの際、其父の最も愛せる櫻樹との夢よだも知らず、唯其斧の切味のよきを喜びつゝ、數多の小童等と無二無三に之を切り散し、翌日又至り父其最も愛せる櫻樹の如何いせんと見舞たりし、豈に圖らざりき幹の言ふも更なり小枝に至るまで細々と切り散らされてあるを見、大に怒り其僕を召して譴責すると甚しかりけるを、ワ生垣の根も戯れつゝ、わびしが、其事を聞き始めて昨日櫻樹を切りしとの悪なるを悟り、走り至りて其父に言ふたる言草は如何、諸生知れや、知れるもの、の舉手せよと命す、

生徒 一同知れりと假定せば其劣生を指名して其全言葉を言ひしむ、若し知らざる時の、諸生若し其場合にあらば如何よ

道義的判
決力を練
る方法

處置すべきと、活用題を出して其道徳上の判決をなさしむ、教師 例の如く全生徒に其當否を求め、後ち教師も又若し我其場合よあらば斯く言ふべし、斯く行ふべしと言ひ終りて、その改過の勇氣に付全生徒よ其如何ある善摸範を我等お示し、るかを問ふ、各生徒として(生徒の大概をして)各其感辭を述べしむべし、終りて後ち教師の各生徒の意見の普通あるものよ已の意見を加へて斯くキリスト教徒の過を知りて之を改むるの勇氣あるべきとを教へ、諸生の今日より其實行に着手すべきとを勸むべし、而して後各生徒お斯の如き行營てありしや否を問ふべし、一生あり曰く我の教師に無禮を加へて直よ改過せりと、一生あり曰く我の父母に無禮を加へて直其過失を謝したりと、各其實驗あらば其最も勝れたる善行を取りて各生徒も以來の誰々さんの如くせよと勸告すべし、

眞正の英雄の過を改むるも客からざるとの例と、キリスト教徒の殊に世人に示すべしと勸告すべし、而して後ち此等の實事に適當せる格言金言を聖書中より摘出して之を黑板に摘書して書取らしむべし、然ども余輩の長く獨り此方法にのみを墨守せよとの言ひざるなり、或の生徒をして教師に代りて己の感じたる美談、佳語を演ぜしむるも可ならん、各生徒をして五分乃至八分時間を與へて短き己の前週間行い來りしとを述べしむるも可なり、短簡なる英雄の奇特ある行爲義俠なる行爲を述べしむるも可ならん、

注意

教師の生徒に向て此等の實事を演述するや茲に大切なる注意すべきの件々を記せん、

(一) 教師の容儀

田舎教員の容儀

彼の田舎小學校教員の袴の七ツ下り、帯の緩り、衽の不整、頭髮の乱髪、足袋の足の親指を顯し、草履の其横尾を絶つも、一向に頓着せず、齒石の澤山ある齒を開きて英雄の美談、豪傑の奇行を談するの甚た其感化力を減ずるの嫌あるを免れず、好し其感化力を放てさほど害なしとするも、無邪氣ある兒童未だ世の經驗なき兒童の、其教師の容儀を倣ふと實に速あり、此れ些僅なる事の如しと雖ども、其生徒に害を與ふるや啻に容儀上のとゞ止らず、其精神の上よも又與ふるなり、例令如何なる細少の事物と雖ども、完全を旨とする善美を旨とするの教育者の取る處なれば粗大磊落なる英雄豪傑の言行を説くも教師たるもの務めて其容儀を脩め其風采を正ふして生徒の坐作進退の模範となるべし、然ざるも兒童は常に不規則、不行儀に流れ易き傾向あるものあれば之れを茲に安息日學校に於

害を精神上及びはすべし

容儀を修めよ

て矯正するは蓋し無益の事業にあらざるべし、否か實地修身
 學の一部分なるよ相違なかるべし、豈又教師たるもの茲に注
 意せずして可ならんや、
 (二) 言語の種類を撰ぶと
 言語は餘り漢語的難澁的なるものを撰ぶと甚た有害無益な
 り、さればどて又野卑耳堪へざる言葉を撰ぶも又固より不
 可なり、若し漢語的チンパンカの言葉を撰ぶときハ兒童
 之を了解するに其全智力を用ゐて其事實を了解するよ用ゐ
 ざるなり、故又其實事を聞き終りて後ハ何を聞きさるりと忘
 るお至る、若し又野卑耳堪へざるときは其事實の品位を下
 等ならしめ、而して之を卑むの念を起し、其感化力を減少せし
 むれば又謹むべきとよあらずや、故又言語ハヨセックツト
 氏の如く解し易きを主とし、野卑なるを避くるよ注意する

と是なり、所謂兒童世界の言葉を用ひ然かも最大數の最大普
 通なる中等社會以上の言葉を用ゆるとの誠に必要あるは余
 輩の長き筆述を要せざる也、
 (三) 事實の種類を撰ぶと、
 兒童の企圖すべからざる事實、即ち兒童の境遇ありて行ふ
 能はざる空談を撰ぶべからず、今日各小學校に於て用ひつゝ
 ある處の讀本の目的ハ、智徳兼用の目的ハ出さるか如きも、到
 底兒童の企圖し能はざる事實を化石の如く配列するハ故に、
 其實行を勸むるハ無力あるハ拒むべからざる事實なりとす、
 故に苟も兒女を愛して彼等を去て我等も今より行ハんとす、
 勇氣を起さしめ、直ち其實行に着手せしめんとせば、須く往古
 よりも近世、近世よりも近頃、米國よりも日本、日本遠隔の地よ
 りも近村、老人よりも青年、青年よりも少年、不信者よりも信者

スベンサ
ー氏の説

繪畫掛圖

の善行佳言を述べて兒女を誘掖すべし、然する時は年代、場所、
 年令、境遇、相似の觀念より同情同感の念を起し、我又斯くの如
 き善行をなし得べしと勵むに至るべし、此は獨り理論の許す
 所なるのみならず、余輩の數年間之を實驗したるか故、其確
 實あるを證するを得べし、獨り余輩のみならず多くの教育
 家は實驗上之れを證して曰く、幼者の品行を脩めしむる標準
 の同情同感の念を起さしむるに若かずと、連呼して我等に勸
 告せり、現に斯氏の如き、斯く言へり曰く、
 幼者の品行を脩むるの爲めに高尚なる標準を設くるは不
 可なり、

(四) 繪畫掛圖の必要
 實事口述の際、要用なるものは鮮明ある畫を畫きたる掛圖を
 生徒の目前に掛くことなり、例へば前例ワシントンワシントンの改悔

其必要の
理由

兒童心意
發達の順序

ならば、其親父の前より出て、涙を流して其罪を謝しつゝあり
 し畫の如きを必要とするあり、此れ何の爲めに必用ある乎、曰
 く、兒女に見るべからざる教師の言葉よりも見るを得る所の
 圖の模様よりも、感動を受くると多きものあり、され
 ばこそペンタロヨンペンタロヨンも我等に告て曰く、兒童を教ゆるに
 有形より無形に進め、單より複に入れ、此れベ氏實驗上より
 此眞理を得たるのみにあらず、心理學上、兒女心意發達の順序
 を研むる時の確かに人間の有形智識より無形の智識は進歩
 し、概念より抽象に從ふものあると、明かな事實として、許多
 有名の心理學者の其然るを證明せり、故に兒童をして明ら
 其事實を了解せしめんとせば、之を説明する前に、其目前に其
 光景の畫を示して、偕て何者ぞやとの疑念を起さしめ、之を
 尋ぬるの念を盛あらしめ、而して後ち飢へたる者も食を與ふ

兒童の記
心力

るか如く、問答しつゝ之れか説明をなさは生徒の趣味を感
るや必然なり、已に趣味を感ずるときと其性質造成の上より
を興ふると少小よりあらざる也、否る全く生涯其を以て原動力
となすものあるも、吾人は知るべからざる處あり、然のみあ
らず掛圖の言語の及はざるを明白に説明するものにして、
圖書の發明せられたる其原を尋るに畢竟此需用を供給する
に外ならず、大人すら已に然り、況んや記號心力の盛なる兒童
よ於て之れによりて言外の意を了すると其るさど比して
幾倍の利益あるものぞや、

畫の想像力を盛あらしめ言語文字の及ばざる所を説明す
とい、現今有名の教育諸家の定言あり、

(五) 聲の抑揚の事

此れ今日我邦に於て近頃漸く僅かの辨士の注意せる所とな

(1)



始終平垣
の辨

りたれども、泰西諸國に於ては已に古より荷も辨を以て事を
なさんとするものは殊に茲に注意するを見て必要あると
明かなるとあるべし、看よ彼の始終同一の辨、波瀾、抑揚のさき
辨り、如何に其聴衆を倦ましむるを、此れ遠く之を歴史より求
め或は外國より求むるも及ばず、近く我邦のキリスト敎會堂に
入りて其事實を確めよ、大人已に聲の抑揚なき演舌に倦む、況
んや血氣盛ある活潑の兒童の天性なりとペシタロソニの
言ひたる如く、兒童の大人と異にして長く變化なきとを大に
嫌ふものよ於ておや、此等の生きたる兒女を集めて之を敎へ
我が敎へたる所を快く了解せしめんとするに、勿論聲の抑
揚の必要ある明かあるとなり、されば其聲の抑揚の有様は如
何より取るべき乎、曰く人情は適ひたる如く人の情性に合ふ様
に其事實を言顯すあり、例へば悲む時の聲を最も重く最も

抑揚の有
様

ビリーチャル氏は人情を辨へ

低く最も深床敷、喜ぶ時の高く軽く早く等の如し、勿論之も添加するに其体勢を以てすべきなり、即ち喜ぶ時は聲を高く軽く早く言顯すと共、兩手を舉げて体を前方に傾け、或は顔色に其喜びを顯すか如く然すべし、然るときは兒童の大に其趣味を感すべし、趣味を感するか故に時の過くるを知らざる程其演述を吞まれば居る也、故に又長く忘れざる也、忘れざるに機會を應じて其を活用するを得る也、余輩は數々此術を通じたる教師の受持生徒が偶然の場合に於て兼て教授せられし事を適用することを見る、

(六) 兒童の情を知る事

聞くヘンリーワルドビーチャル氏の常に務めて各種の人と交際したりと、此れ蓋し人情を通せしむる爲めなりとか、蓋し已に人情を通じたりとする乎集會の人種を一見して今此等の

適當の刺激物

人々等の感情の最大數の何れか方向に向きつゝあるを悟ると容易なればあり、例へば今會衆の多くが死の恐るべきことを感じつゝある際、會堂新築費募集演説をなさば誰か能く之に應ずるものがある、唯死の恐るべきことを演説して始めて大に功あるへし、始めて大に聽衆を感動せしめ、或は決心せしむることを得べし、兒女又感情的動物なり、殊に彼等には私慾人邪の之を覆ふことなきより感得する儘に直ち感ずるなり、然ども彼等の感情を惹き起すに適當の刺激物なるへからざることは心理學上の原則なり、適當の刺激物といへば何ぞや今感じつゝある事情を察して其求めに應じて其需用を供給するにあり、此れ教師するものの口演の際須く兒童の心情如何を知らざるへからざる所以にして、恰も我等敵を勝たんとせし敵の内情を能く知らざるへからざるか如し、ル

ソ一曰く童蒙の師たるもの若し童蒙の意を知らず強て學に
從事せしめんとせし必ず童蒙の心を失ふ可しと知言なりと
云ふへし、

(七) 言行一致の必要なる事

教師若し美談を演述する教師一行と言ふ所と其一致を保
ざる時、児童をして詐偽の人とらしむるあり、大人は皆多少
世の經驗を有する故に説教者演述者の説を加減して聞くも
児童の心意未だ此等の經驗なく、聞く處のもの見る所のも
の、盡く新奇且つ盡く信用せんとする性、信實とするの傾向
あるものあり、故に教師若し演述の際にはホーロの如くル
テルの如く、大胆に大衆の目前に於て臆せず福音を述べ
しと、教訓しつつ己の齒の根も含みず、戦々と聲もろ俱に顛せ
ながら、大衆に目前に於て演述する所の臆病千萬劣等卑屈の

教師よてありしならん、児童の斯く悟るへし、大胆に語ると
常に口は唱へても、サーと云ふとき、ブルと聲顛らせ
齒ガクくとせざれば、ホーロの如き英雄あらざるものあ
りと、此固より極端の例なりと雖も、世間此類の事實寡からざ
る也、夫れ言行一致の大人を牧するに必用なり、児童の直ち
摸するの動物なり、經驗乏しく、心意水の如く流動し易き故に、
殊に児童の教師たる人、言行一致必要ありとす、ジョフオ
ノツト曰く、児童の摸擬的の動物なりと、ノルゼント曰く、人を
教へて躬ら先づ之を背くとき、其弊或は其益よりも大なり

(八) 唯善事のみを演述する事

教師の口演の際に當り、實事の善きもののみを演述して、其惡
事をも合せて恰も批評的眼光を以て批評傍ら演せられざる

善事を長く
勉むる

こ。と。を。勸。告。せ。さ。る。を。得。ず。蓋。し。兒。童。の。性。た。る。其。實。事。の。惡。事。に。却。て。善。く。同。感。の。念。を。起。し。趣。味。を。感。ず。る。も。の。よ。し。て。善。事。に。却。て。其。趣。味。淺。き。が。故。に。忘。却。し。易。し。此。故。に。時。移。り。星。變。り。開。き。よ。る。善。事。に。已。に。忘。却。す。る。も。同。感。を。起。し。趣。味。を。與。へ。た。る。惡。事。に。長。く。兒。童。の。記。憶。を。存。し。て。之。を。實。地。に。應。用。せ。ん。と。す。る。の。企。圖。を。懷。お。し。む。る。の。媒。介。と。な。る。豈。に。夫。れ。恐。れ。ず。し。て。可。な。ら。ん。や。

安息日學
校教員會
の種類

第四章 教員會

兒女安息日學校を改良進歩せしめんか爲めに當局者の集會するもの五種あり、一と一教會中の教員校長の集會、二は近村部落の集會、三は郡部落の集會、四は州部落の集會、五は米國一般の集會、六は萬國の集會、此れ米人の兒女安息日學校の爲めに集會する會の種類なるが、余輩は左の二種の集會をもせめて、我邦に設けられんとを切望するものあり、二種とい何をや一は教會一己の兒女安息日學校教員及校長の集會、二は少しく擴張して二三以上の他の安息日學校教員及校長の集會是れなり、今日我邦兒女安息日學校問題の研究すべきと山の如し次の事項は其重なるものなるへし、
曰く如何して生徒を増加する乎、如何して其生徒の欠席を防ぐ乎、如何して聖書を教ゆべき乎、如何して善行を勵ましむる

今日安息
日學校問
題

乎、如何あるものを最も適當の教科書とする乎、如何なる方法によりて編級すべき乎、如何ある教員は最下級の生徒を教ゆるに適する乎、最幼生の教授法は如何、會計は如何に處置すべき乎、男女混教の利害は如何、賞品賞物を與ふる道德上の利害如何、男女教員の配付如何、此等の問題を理論上實驗上より之れか利非得失を討論し、或は演じ、或は各自小述へ、或は有識の士を聘して其所見を叩き、其智見を擴張すること、此れ此會の主意目的ありて、其外教員中神學上、聖書上、歷史上、學理上の疑問（以上凡て教授に關して）を解かんか爲めに其時日を一定して有識深智の牧士、教師、及傳導士等を招聘して之を質問する等となさば其利益蓋し少なきにあらざるべし、此等の疑問山の如し教員會設けずして可ならんや、

此集會功
驗

余輩は嘗て教育の任を負ひたると五星霜の久きと涉りたる

ものなるが、各縣、各郡、各部落、教員講習會なるを設けられし以來、我邦學校教授上より一大進歩改良をおせるを見たり、從て其好果を收むるを得たるを實驗したり、唯に余輩は他黨の例を引きて之を喋々するを要せんや、我安息日學校に於ても其然るを實驗したり、吾輩は我教會に於て之を實驗したりき、從て生徒變じて良生徒とありたり、兒女を思ふもの唯は安息日にカードの暗誦を教へたるのみを以て其職務を終れりと思ふて可ならんや、

第七課教授上の格言

スベンサー氏

- (一) 心よ楽しむ時お物お感ずると從て深く心に樂まざる時の物お感ずると亦從て淺し
スベンサー氏
- 教師たるもの其兒童を教導するお當り之を學ぶものよ付趣味を感せしむると必要あり
- (二) 教育の道の第一單純より繁雜に進むべし、第二具より抽象のものお終るべし、第三方法及順序よ於て一般人類の教育と同様おらざる可からず、第四經驗的より合理的に進むべし、第五開發の進路の飽まで獎勵するを要す、第六生徒をして快樂の感覺を起さしむべし、

スベンサー氏

- (三) 教師の事業の生徒を提撕して其觀察の勞力を徒費せしめざるよあり、

ジョフオノット氏

ジョフオノット氏

- 教師たるもの教授の際によりて生徒よ妄りに告くるよあらず、生徒自らして觀察せしめ其觀察せし結果を消滅せしめざるよあり、
- (四) 兒童を養育するの智識なければ兒童の死亡するもの多かるべし、
全 上
- 兒童安息日學校教員にして聖書上の智識なきものは其任に堪へざるは勿論、教授法上の智識なきものも其任よ堪へざるものとす、

- (五) 教科書の方便として之を使用すべし目的として使用すべからず、
全 上

- カードを教ゆるの敬神如己愛隣の念を發達せしめんか爲めカードを文字の通り教ゆるは目的にあらざる也、
- (六) 凡そ聲音の温和中よ嚴肅の氣を存するを以て大に人心を

ノルゼン氏

制御するに足るものあり、

ノルセント氏

教授中児童を叱咤して得たる静肅の其繼續の時間も又久しからざる也却て温和中に過半の嚴意を含まざる聲音を善しとす、

ツエケール氏

(七) 教師問を設けてより先づ諸生を一睨し然る後に一生徒の姓を呼び其答を求むべし、
ツエケール氏

(八) 聖經の強者の肥肉にして弱者の乳汁なり、

全 上

(九) 説明を懈りて唯言語を諳誦せしむるの教師は只外殼を取り内實を棄つるの人あり、
全 上

(十) 教師の必ず過言するとなき、務めて生徒をして言はしむべし、
全 上

妄に注入するの教師の過言よして生徒をして一言も發せ

ペスタロッチ氏

しめざるの教授法あり、

(十一) 自然の順序を逐ふて諸能力を開け、

ペスタロッチ氏

(十二) 教育の常は仁受なる管理おして上帝の賦與せる良智良能を養育するものなり、
全 上

(十三) 生徒の其業と勉めざるの常は之れか興味を感せざるより起り、生徒の其業を樂まざるの常に之れか教授法の良からざるによる、
全 上

教師の教授中生徒の熱心ならざるを妄り又咎むる勿れ先づ自ら猛省せよ思ひ當るとあるべし、

カルテルウーロ氏

(十四) 教授の大眼目の教授と德行匡誘の二語の中は包含するあり、
ヘンリー、カルテル、ウーロ氏

ストウ氏

(十五) 練習なくんば假令教ゆと雖ども未だ以て足れりとせず、

(十六) 教師の力の教授にあり、

デウビット、ストウ氏

デスター
ヒー氏

斯くデ氏をして呼ひしむる程教授の方法の教育に大關係を有するものなり、

デスタールヒー氏

(十七) 已知より未知に有形より無形に一物より一般又易より難及べ、

ペスタロッチー氏

(十八) 生徒をして其課業又娛樂の味ある心を發起せしめ、且此心を盛んならしむるの之れ教育の主として務むべき處なり

全 上

(十九) 教師の教授せんとするに方りて必ず先づ教育の果して何物なると知了せずばある可らず、

デウビット、ペーキン、ペーソ氏

ムーロ
ジ氏

ペスタ
ロ
ヒー氏

スメン
サー
氏

(二十) 夫れ小兒に静坐を命するか如きの活潑なる小兒の決して堪へざる處にして強て之に従ひしめば必ず大に其精神を擾乱するを免れず、

スメンサー氏

以上有名なる教育家の格言の間直接又我等か如何に兒童を教授すべき乎を教ゆるものなり、余輩之を熟考して益を得ると淺少又あらざりき、蓋し此等諸家の格言の實驗或は深考の結果として人生自然の發達法又適し人性自然の性質又適合したるものさればなり、讀者若し之を熟讀玩味せば教授上益を得る蓋し僅少又あらざるべし、



明治二十四年三月二十日印刷
全 年三月廿三日出版

定價金貳拾錢

著 者

島貫兵太夫
宮城縣仙台市東二番町
三十一番地

發行者

寺岡重之助
東京京橋區出雲町
一番地

印刷者

安枝武雄
全京橋區明石町
十二番地

賣捌所

警 醒 社
全京橋區出雲町一番地

廣東省立第一師範學校
廣東省立第一師範學校

廣東省立第一師範學校

廣東省立第一師範學校

廣東省立第一師範學校

廣東省立第一師範學校

